

## 令和5年住宅・土地統計調査住宅数概数集計結果の概要について

2023年（令和5年）10月1日現在で実施しました標記調査について、2024年（令和6年）4月30日に総務省統計局から住宅数概数集計結果（※）が公表されましたので、本県分の概要をお知らせします。

（※）今回の公表は、総住宅数や空き家の総数等の概数を、確定数に先駆けて公表するものです。よって、今後公表する住宅及び世帯に関する基本集計等の確定数と、今回の住宅数概数集計の数値とは必ずしも一致しません。



### ★ここがポイント

- 総住宅数は139万1,000戸（1963年以降では過去最多）となり、前回調査（2018年）に比べ6万2,100戸増加し、増加率は4.7%となっている。
- 空き家数は19万6,700戸と、前回調査（2018年）に比べ500戸減少し、空き家率は14.1%となっている。
- 「賃貸・売却用及び二次的住宅を除く空き家」は9万3,400戸となり、前回調査（2018年）に比べ1万5,200戸増加し、「賃貸・売却用及び二次的住宅を除く空き家率」は6.7%で前回調査（2018年）に比べ0.8ポイント上昇した（空き家数及び空き家率は、1983年以降ではいずれも過去最多）。

## 1 調査の概要

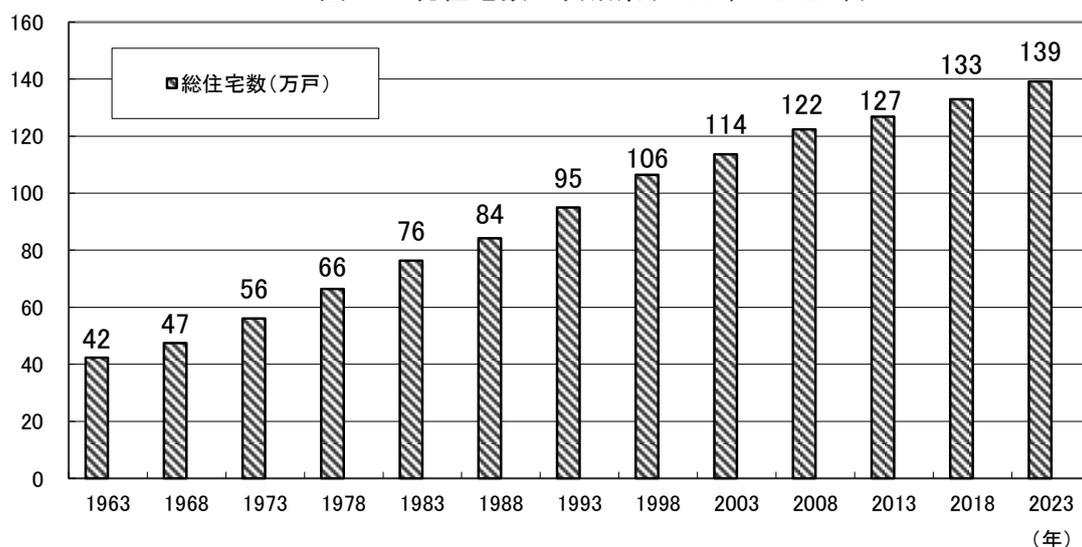
- 住宅及び住宅以外で人が居住する建物に関する実態並びに現住居以外の住宅及び土地の保有状況その他の住宅等に居住している世帯に関する実態を調査し、その現状と推移を全国及び地域別に明らかにすることにより、住生活関連諸施策の基礎資料を得ることを目的としている。
- 全国約340万住戸・世帯、本県では約8万8千住戸・世帯を抽出し調査を行った。
- 本調査は1948年（昭和23年）以来5年ごとに実施し、今回はその16回目に当たる。

## 2 調査結果の概要（本県分）

### （1）総住宅数

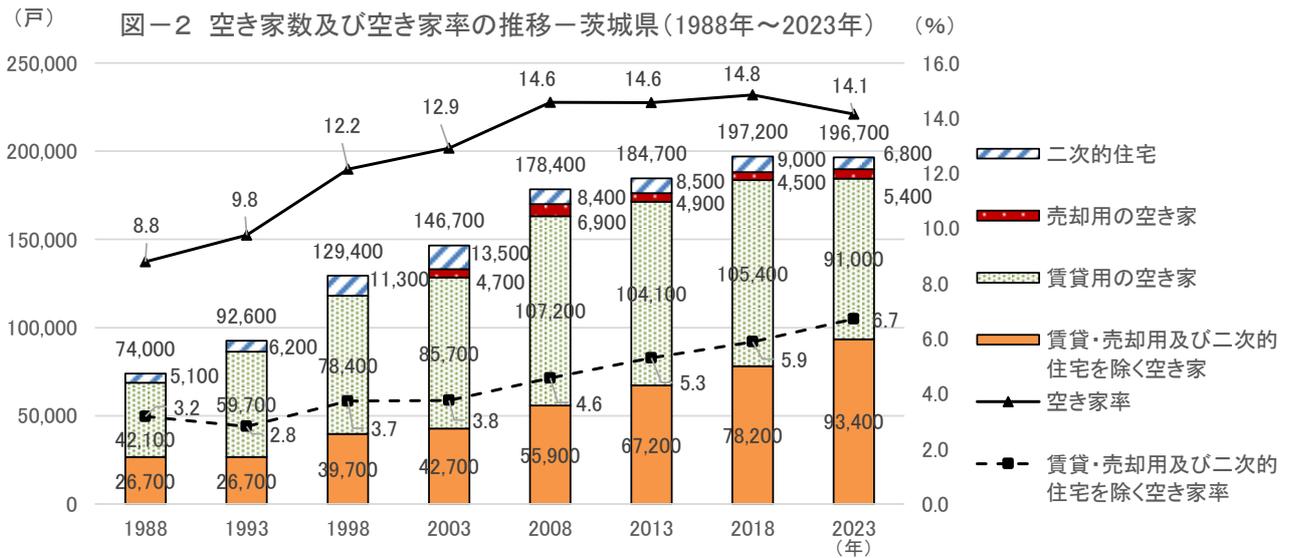
- 総住宅数は139万1,000戸（1963年以降では過去最多）となり、前回調査（2018年）に比べ6万2,100戸増加した。
- 増加率は4.7%となっており、前回調査（2018年）の増加率よりも0.1ポイント低下した。  
（全国：総住宅数が6,502万700戸と過去最多となり、前回調査（2018年）に比べ261万3,300戸増加した。増減率は4.2%となった。）

（万戸） 図-1 総住宅数－茨城県（1963年～2023年）



(2) 空き家

- 空き家数は19万6,700戸で、前回調査（2018年）に比べ500戸減少した。
- 空き家率は14.1%で前回調査（2018年）に比べ0.7ポイント低下した。  
（全国：空き家数が899万5,200戸と過去最多となり、前回調査（2018年）に比べ50万6,600戸増加した。空き家率も13.8%と過去最高となった。）
- 空き家数のうち、「賃貸・売却用及び二次的住宅を除く空き家」は9万3,400戸（1983年以降では過去最多）となり、前回調査（2018年）に比べ1万5,200戸増加した。
- 「賃貸・売却用及び二次的住宅を除く空き家率」は6.7%（1983年以降では過去最多）で、前回調査（2018年）に比べ0.8ポイント上昇した。



※1988年から1998年までは、賃貸用の空き家に売却用の空き家を含む。

【補足：空き家の種類と説明】

空き家の種類		説明
空き家	賃貸・売却用及び二次的住宅を除く空き家	賃貸用の空き家、売却用の空き家及び二次的住宅以外の人が住んでいない住宅で、例えば、転勤・入院などのため居住世帯が長期にわたって不在の住宅や建て替えなどのために取り壊すことになっている住宅など（注：空き家の種類の判断が困難な住宅を含む。）
	賃貸用の空き家	新築・中古を問わず、賃貸のために空き家になっている住宅
	売却用の空き家	新築・中古を問わず、売却のために空き家になっている住宅
	二次的住宅	別荘 週末や休暇時に避暑・避寒・保養などの目的で使用される住宅で、ふだんは人が住んでいない住宅 その他 ふだん住んでいる住宅とは別に、残業で遅くなったときに寝泊まりするなど、たまに寝泊まりしている人がいる住宅

なお、今回の調査結果では、空き家の種類について以下のとおり名称及び表記順の整理を行った。

